

2013年
5月31日
金曜日

栗田匡相 准教授（開発経済学）

「今」と「世界」とのつながりに ついて

ださい。」 スーザン・ソントグ

「人の生き方はその人の心の傾注がいかに形成され、また歪められてきたかの軌跡です。注意力の形成は教育の、また文化そのもののまごうかたなきあらわれです。人はつねに成長します。注意力を増大させ高め、人は、人が異質なものと対して示す礼節です。新しい刺激を受けとめること、挑戦を受けることに一生懸命になってください。」
（中略） 傾注すること。注意を向ける、それがすべての核心です。眼前にあることをできるかぎり自分の中に取り込むこと。そして、自分に課された何らかの義務のしんどさに負け、自らの生を狭めてはなりません。傾注は生命力です。それはあなたと他者とをつなぐものです。それはあなたを生き生きとさせます。いつまでも生き生きとしていてください。良心の領界を守って

生き生きとした素晴らしい人生を送りたいと思うのは、老若男女問わず、誰もが思うことだと思う。でもこれが強迫のように「素晴らしい人生を送らねばならない」となってしまうと少々面倒くさいことになるのだろう。「素晴らしい人生」はまだ開かれていない可能性であるため、現在の私にはその「素晴らしい」を完全に知ることは出来ない。せいぜい、こっちの方に行ったらなんか美味しそうな匂いがする、ぐらいの曖昧なものでしかないだろうし、その直感が間違ふ可能性ももちろんある。あるいは、その不安定さや曖昧さがとらえどころのないものであるため、人々は形ある素晴らしそうなものに心ひかれるのかもしれない。判断がつかないことに直面すると

確かに人は不安になる。例えば未来とは、輝かしいイメージをもたらすこともあるかもしれないが、同時にその予測の不可能性から人に不安や緊張を強いるものなのかもしれない。だから少なくとも現在の自分自身について、自分の欲求について、より正確に具体的に知りたいという思いってしまうのだろう。でも、ソントグは自分自身について考えることなくしなくない、と述べる。その代わりに、本を読むこと、動き回って旅を続けることや目の前のことを自分の中に一杯取り込むことを勧めてくる。その行為は、絶えざる刺激を我々に与え、自らをまだ見ぬ新しい自分へと変容・成長させてくれる。

も、時が過ぎていくならば「自分の今」を希薄にさせないように全身を震わせて目の前のことに対峙する自分でいよう。そんなあなたには予測不可能な世界を変えうる意志と想像力という武器が備わるはずだ。そう、予測不可能な世界とはそんな君のために存在しているんだ。こうして「世界を変える」という詩的なビジョンは自分で選んだ今を生きるあなたから他者へと紡がれ、そして具現化され、まだ見ぬ他者との邂逅に祝福を与えてくれる。例えば、言葉も通じない異国の人々のために奔走する学生は時に滑稽に、夢見がちに見えるかもしれないが、それは想像力と意志に乏しい大人の臆病なまなざしだ。そんな学生を見たら、「世界にはまだまだ希望がある！」と叫べる自分でありたいと思う。